ヨハン・シュトラウス・ジュニアの急上昇

45才のときヨハン・シュトラウス・シニアは猩紅熱に罹った。これはエミーリエ・トラムプッシュとの間に生れた子供の一人から感染したもので、僅か数日後の1849年9月25日、彼はエミーリエとの共同の住居で世を去った。9月27日にシュテファン寺院で告別式が行われた後、シュトラウスはデブリンク墓地に眠る旧友ヨーゼフ・ランナーの隣りに埋葬された。エミーリエのその後の運命は全く知られていない。ヨハン没後10年と経たないうちに、彼女は消息不明となった。

父の没後、若きシュトラウス・ジュニアは父のオーケストラを受け継いだ。長男であった彼は、父に代わって家長たるべき責任を自覚していた。もちろん、一家の大黒柱として母や弟妹の生計をも支えなければならなかった。他方、父という強力な

ライバルの圧迫から解放された彼は、全力を挙げて音楽家としての道を驀進した。父の場合同様、彼もまた毎晩いくつかのホールに掛け持ち出演しなければならなかった。加えて、体力を消耗するリハーサル、オーケストラ運営上の庶務、演奏契約のための交渉などがあった。彼は精力的に作曲を続け、繰り返し苦労の多い演奏旅行に出かけヨーロッパ中を駈け回った。神経をすり減らす様々な責務と恒常的なオーバーワークは、シュトラウスの健康を著しく害するものであった。このため、病気になると回復まで長期間を要した。

中央墓地にある父ヨハン・シュトラウスの墓碑には、彼のポートレートをレリーフしたメダルが見られる。

若きヨハンは父の音楽的遺産を受け継ぎ、一家を経済的に支える立場となった。当初疑いの面持ちであった聴衆も、たちまちのうちにシュトラウス・ジュニアの音楽に魅了された。1852年、新聞は次のように評している。「父シュトラウスの役割を今やシュトラウス・ジュニアが完璧に引き継いでいる。」

最初の妻イェティー

1862年の夏ロシアに到着するや否や、ヨハンは「発熱性」と称する詳細不明の病気を理由にステージから遠ざかった。ところが急遽代役として弟ヨーゼフが到着すると、兄は全くの健康体であった。弟に後を任せたヨハンは直ちにウィーンへ戻り、何の予告も無しにヘンリエッテ・シャルペツキーと結婚した。彼女はイェティー・トレフツの芸名で知られるオペラ歌手であった。センセーションを引き起こすことは避けねばならなかった2人は、結婚を既成事実としてから周囲の人々に対応するのを得策と考えたのである。

イェティーは確固たる自意識をもち、明るく機知に富む世慣れた女性であった。彼女はオペラ歌手として急速に国際的な成功を収め、若いうちから自力で裕福な財政基盤を築き、結婚することなしに7人の子供を育てた。18年に亙り彼女はモーリッツ・トデスコ男爵と共に暮らし、正規の結婚手続き無しにウィーンの社交界からも受け入れられていた。今や彼女はヨハン・シュトラウスと結婚するため、男爵のもとを去ったのである。

この結婚は大きな幸せをもたらした。ヨハンはイェティーの中に、安心して寄りかかることのできる強い女性を見出したからである。イェティーは夫の音楽活動を更に発展させるため全力を尽くし、彼を不愉快な日常の雑事から解放、女性特有の直感力とエネルギッシュな実行力で私生活を切り盛りし、音楽家としての夫の活動をマネージメントした。その愛すべき性格によってイェティーは、たちまち家族の中に溶け込んだ。これは彼女がヨハンの母親との対立を避け、夫の音楽家としての自意識を強力にバックアップしたからである。

イェティーの本名は
ヘンリエッテ・
シャルペツキーで
あった。彼女は母の
旧姓トレフツを
芸名とし、オペラ
歌手として国際的な
成功を収めていた。

イェティー・トレフツ
所蔵の耳飾り。

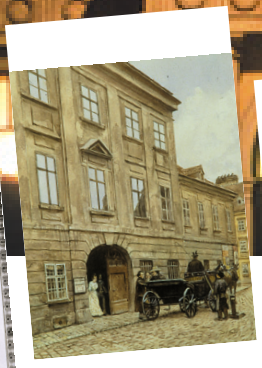
シュトラウスとオペレッタ

結婚当初からイェティーは、ヨハンにオペレッタ作曲を促した。50年代からジャック・オッフェンバックはオペレッタ作曲家としてウィーンで大きな成功を収め、シュトラウスにも次のように勧めていた。「君もオペレッタを作曲したまえ。君にはその力がある。」だがシュトラウスは躊躇し、新たな分野に対する自己の能力を疑い続けた。他方イェティーも熱心に夫を説得し続け、遂に目的を果した。こうして1871年アン・デァ・ウィーン劇場（＊）で、シュトラウス最初のオペレッタ「インディゴと40人の盗賊」が初演された。満席の劇場で観衆は夢中になったが、新聞評は賛否両論に分かれた。今日この作品は殆ど忘れ去られている。だがヨハン・シュトラウスは新たなジャンルに進出したばかりでなく、この分野を愛するようになったのである。その後彼は更に幾つかのオペレッタを後世に残した。

「こうもり」は彼のオペレッタの中でも世界的に最も良く知られ、最も人気の高いものである。この作品は1874年、ヨハンのデビューから30周年を記念して、これもアン・デァ・ウィーン劇場で初演された。「取り返しのつかないことは、忘れてしまうのが幸福の秘訣」というリブレットの一節は、間もなくウィーン子の間で流行語となった。

更に今日まで良く知られ愛されているオペレッタ代表作は「ヴェネチアの一夜」（1883年）と「ジプシー男爵」で、これは1885年シュトラウス60才の誕生日を記念して初演された。

フォルクスオーパー（＊）はウィーンのオペレッタ専門劇場として知られている。



今日のアン・デァ・ウィーン劇場は、重要なミュージカル劇場のひとつである。ここに見られるのは同劇場の最も美しい部分で「パパゲーノ門」の名で知られている。

アン・デァ・ウィーン劇場前のヨハン・シュトラウス。彼のオペレッタ作品の大半は、ここで初演された。数少ない例外のひとつが「ヴェネチアの一夜」である。この作品の初演にシュトラウスはアン・デァ・ウィーン劇場を拒否した。これは、離婚した2度目の妻リリーと彼女の新たな伴侶フランツ・シュタイナーが同劇場のメンバーだったからである。